

研修目的

皮膚科学的な EBM を考慮した診療技術の体得を目指す。具体的には、

- 皮膚科学的診察方法、皮膚症状記載方法、基礎的な皮膚病理学を習得する。
- 外来・病棟での処置・小手術を通し、皮膚外科的な技術を習得する。

習得できるアウトカム（能力）

● 1) 必ず習得できるアウトカム（能力）

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

2024 年度版医師臨床研修指導ガイドラインの到達目標のうち、指導医の指導の下単独で下記到達目標を行えるようになる

- 利他的な態度
- 人間性の尊重

B. 資質・能力

2024 年度版医師臨床研修指導ガイドラインの到達目標のうち、指導医の指導の下単独で下記到達目標を行えるようになる。

- 医学・医療における倫理性
- 医学知識と問題対応能力
- 診療技能と患者ケア
- コミュニケーション能力
- チーム医療の実践

C. 基本的診療業務

2024 年度版医師臨床研修指導ガイドラインの到達目標のうち、指導医の指導の下単独で下記到達目標を行えるようになる。

- 一般外来診療
- 病棟診療

● 2) 研修医の意向により習得できるアウトカム（能力）

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

2024 年度版医師臨床研修指導ガイドラインの到達目標のうち、指導医の指導の下単独で下記到達目標を行えるようになる。

- 社会的使命と公衆衛生への寄与
- 自らを高める姿勢

B. 資質・能力

2024 年度版医師臨床研修指導ガイドラインの到達目標のうち、指導医の指導の下単独で下記到達目標を行えるようになる。

- 社会における医療の実践
- 科学的探究
- 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

C. 基本的診療業務

2024 年度版医師臨床研修指導ガイドラインの到達目標のうち、指導医の指導の下単独で下記到達目標を行えるようになる。

- 初期救急対応
- 地域医療

皮膚科における、必ず習得できるまたは意向により修得できる具体的なアウトカム

- 1 皮膚科的診察から診断までのプロセスを学ぶ。
皮膚疾患の診断に必要な病歴を聴取し記載することができる。
皮膚病変を、発疹学に従い正しく記載することができる。
頻度の高い皮膚疾患（蕁麻疹、熱傷、感染症等）について、診断を行うことができる。
- 2 皮膚疾患の診断に必要な検査を選択し、実施することができる。
真菌直接検鏡・パッチテスト・ダーモスコピー・皮膚生検などの皮膚科的検査を習得する。
- 3 紫外線療法・生物学的製剤投与による皮膚科的な治療を学ぶ。
適応疾患を理解し、適切な光線療法・注射を施行することができる。
- 4 皮膚生検・皮膚癌などの皮膚外科手技を習得する。

初期研修医が皮膚科での研修期間を有意義なものにするため、下記の学習、手技獲得の目標を設定した。皮膚科で経験する疾患の数や種類に研修時期が大きく影響するため、下記の目標は必ずすべてを満たす必要はない（経験できない場合もあり得る）が、皮膚科を専門としない医師でも最低限経験しておくといふ手技や行為等を含めているため、努力目標としてなるべく経験できるように積極的に研修していただきたい。

皮膚科研修で習得する…

① 技術

- 1) 問診の取り方 ☐
- 2) 皮膚症状の記載 ☐
- 3) 真菌直接検鏡 ☐
- 4) ダーモスコピー ☐
- 5) 皮膚生検 ☐

② 知識

- 1) 皮膚科全般の基礎知識（頻度、鑑別、治療など） ☐
- 2) 皮膚アレルギー疾患の基礎知識（頻度、鑑別、治療など） ☐

皮膚科研修で経験する…

① 症例

- 1) 蕁麻疹 ☐
- 2) アトピー性皮膚炎 ☐
- 3) 丹毒・蜂巣炎 ☐
- 4) 薬疹 ☐
- 5) 血管炎 ☐
- 6) 膠原病 ☐
- 7) 皮膚癌 ☐

② 医療行為

- 1) 新患または紹介患者：問診、診察、治療方針の決定 ☐
- 2) パッチテスト：問診、診察、判定 ☐
- 3) プリック検査：問診、診察、判定 ☐
- 4) スクラッチ検査：問診、診察、判定 ☐
- 5) 皮膚生検の手術 ☐
- 6) 皮膚癌の手術 ☐

③ プレゼンテーション・論文

- 1) 担当患者のプレゼンテーション ☐
- 2) 症例のまとめ ☐
- 3) 皮膚科関連学会での発表 ☐
- 4) 皮膚科関連雑誌への投稿 ☐

具体的な指導方法・フィードバック方法（研修方略）

研修医には指導者として指導責任者または指導医が充てられ、その指導の下診療活動を行う。

行った診療活動は、指導医に報告し承認を受ける。

重要な診療活動は、行う前に指導医に相談し承認を受けて行う。

習熟度に応じ、指導医の承認を得られたものについては、単独で行う裁量を与える。

インシデント、アクシデント、針刺し事故のような医療事故に会った場合または予想される場合は、直ちに指導医に相談する。

●外来診療

新患の予診を担当させることがある。必要な情報や鑑別などを診療録に記載する。

外来症例の診療に陪席し、自らの診断の正否を確認し、治療を学ぶ。

指導医または症例担当医の指導の下、外来患者の診察を行う。

指導医または症例担当医の指導の下、皮膚科的検査・処置・小手術に参加する。

●病棟診療

指導医または症例担当医の指導の下、症例を受け持ち、検査治療方針の立案策定、診療録記載、症例検討会でのプレゼンテーション、退院サマリ作成、書類作成などを行う。

指導医または症例担当医の指導の下、皮膚科的検査・処置・小手術に参加する。

●手術

指導医または症例担当医の指導の下、手術介者として参加する。

指導医または症例担当医の指導の下、術前術後管理を行う。

●皮膚病理診断学習

指導医または症例担当医の指導の下、担当症例の病理標本を観察し、皮膚病理診断法を学ぶ。

●学術活動

研修医先生的意思表明により、指導責任者の指導の下、臨床研究への参画、学会発表や論文作成の機会を提供する用意がある。

●フィードバック方法

随時、皮膚科研修目標に挙げた各項目について、達成状況や改善すべき点などを、自己評価及び指導責任者または指導医による評価を行う。

研修期間終了時に、指導責任者または指導医が、本施設で定められた研修医評価方法に基づき評価を行う。結果をフィードバックする。

週間予定表（2026年04月01日現在）

	午前	午後	夕方
月	08:30～12:00 外来/病棟診療	13:00～17:15 外来/病棟診療・小手術 自己研鑽	
火	08:30～12:00 外来/病棟診療	13:00～17:15 外来/病棟診療・小手術 自己研鑽	
水	08:30～12:00 外来/病棟診療 (手術室局所麻酔手術枠)	13:30～15:00 症例検討会 病棟回診 15:00～15:30 病理検討会	～17:15 外来/病棟診療・小手術 自己研鑽
木	08:30～12:00 外来/病棟診療 (手術室全身麻酔手術枠)	(手術室局所麻酔手術枠)	～17:15 外来/病棟診療・小手術 自己研鑽
金	08:30～12:00 外来/病棟診療	13:00～17:15 病棟診療・小手術 自己研鑽	

() は適宜行われる。業務の進捗により開始・終了時間は変更されることがある。

指導責任者および指導医（2026 年 04 月 01 日現在）

指導責任者： 池田 高治（皮膚科専門医・指導医 リウマチ専門医・指導医）

学会発表・論文作成に対する指導体制

研修医先生の意思表示により、指導責任者の指導の下、臨床研究への参画、学会発表や論文作成の機会を提供する用意がある。

上記の際には、発表のための文献検索方法、スライド作成方法、プレゼンテーションのスキルなど、研修医の自己研鑽とキャリア形成に生かせる学術活動を支援する。